

大竹市指定重要文化財

ほうきよういんとう

史跡 宝篋印塔

宝篋印塔は『宝篋印陀羅尼』を納めた供養塔です。

薬師寺の宝篋印塔は明和八年（一七七一一）住職如実法師が願主となり、大竹村有縁の人々によつて、二世（今世と来世）安樂を祈つて建立されました。

特に明和年間是全国的に大火・洪水が発生した上に飢饉ききん、疫病えきびようなども発生したので、大竹村の人々は、これに歯止めをかけようと願い、大變立派な宝篋印塔を建立しました。

大竹市域でここだけに現存する貴重な文化財で技術的にも大變優れた石造物です。

塔の上段には、金剛界五仏ぼんじを梵字で表しています。

但し大日如来だいにちによらいは宝篋印塔自体になるので、梵字は東西南北の四面仏となっています。

塔高 二m四十cm（全高三m四十cm）

辺 二m十cm

石の種類 花崗岩

「大竹市指定重要文化財史跡」に平成十七年三月二十五日に指定されました。

※如実法師の墓は、歴代住職の墓地内向かって右より三番目にあります。

翌年明和九年（一七七二）には、山門をくぐると、左側に宝篋印塔をお守りする法華塔が建立されました。